

自由北韓放送における松原拉致問題担当大臣メッセージ
(平成24年4月22日収録、於：韓国ソウル)

この放送をお聞きの皆さん、私は、日本政府の拉致問題担当大臣に任命された、松原仁です。

まず、最初に、この放送を聞いている日本から連れ去られた皆さん、私は大臣に任命される前から、10年以上の長きにわたり、国会議員として、北朝鮮に連れ去られた皆さんを早期救出するための活動に取り組んでまいりました。

野田総理は、昨年9月に日本の総理大臣に就任されて以来、日本から連れ去られた皆様を必ず取り戻すという真剣な思いを持っています。

日本政府は、国の責任において、あらゆる手段を用いて、皆さんを一刻も早く助け出すために全力を尽くします。決して希望を捨てずに、お体を大切にしてください。

次に、北朝鮮の指導者の方々に申し上げたい。

我々は引き続き、日朝の国交正常化が、双方の国益にとって、更には北東アジアの安定と繁栄にとって重要であり、これを我々の目標とするべきであると考えております。一方、拉致問題の解決なくして日朝国交正常化はありえない、これは日本の一貫した基本方針であります。

また、基本的な認識として、拉致問題はどれほど時間が経過しても風化することはない。具体的な進展がなければ、圧力が強まることがあっても弱まることはありません。関係者の中にご高齢の方も多し、万が一にも、解決を見ずして関係者が多く亡くなられるという事態に至れば、国交正常化の機会は未来永劫に失われることとなります。残された時間は少ないということを強く申し上げたい。

北朝鮮が国際社会の声を無視してミサイル発射を強行したことは極めて遺憾であり、国際社会はこれに厳しく反発をしている。さらなるミサイル発射や核実験の実施に関しては、強く中止を求めたい。一方で、北朝鮮が、発射失敗を率直に認めたように、新政権が現実に真摯に向き合い、具体的な行動を示すならば、我が国を含む国際社会はこれを評価することになるでしょう。拉致問題において、既に死亡していると主張してきた方々が、例えば、再調査の結果、実は生存していたと主張を変えたとしても、過去の責任を問うものではなく、大きな進展と評価していきたいと、あえて申し上げたい。

具体的な進展が見られるならば、我が国は北朝鮮と歴史的にも地理的にも近い関係にあり、如何なる他国にも劣らぬ人道支援が可能との立場であり、更には国交正常化の暁には我が国は北朝鮮にとって最も必要な隣国となるということを、あえて私は申し上げたい。拉致問題という避けて通ることのできない課題に対して、新体制が一定の新たな方向性を出すことを期待してやみません。

以上、私は、日本政府の拉致問題担当大臣として、北朝鮮の指導者に強く真剣に訴えたい。

(以 上)